

（件名）シンガポールのアフターコロナについて

2022 年のシンガポールは、新型コロナウイルス感染症関連の規制が大幅に緩和され、コロナ禍以前の活気が戻ってきた 1 年でした。今月のレポートでは、2022 年の締めとして、今年 1 年間の変化についてご紹介いたします。

■ 旅客数の推移について

- ・2020 年 12 月にシンガポールに赴任した報告者が、赴任当時と比べて最も変化が大きかったと感じた項目「渡航制限の緩和（旅客数の推移）」に関する情報をご紹介します。
- ・シンガポール政府は 2022 年 4 月に、入国前検査や入国時隔離の撤廃をはじめとする渡航制限の大幅緩和を行い、新型コロナウイルス感染症流行前と同じような往来が可能となりました。その結果、旅客は右肩上がり増加（図 1）し、2022 年 1 月から 11 月までの 11 か月で約 2,700 万人（前年比 +2,454 万人）の水準まで回復しました。通年では、新型コロナウイルス流行前の水準には及ばない（図 2）ものの、直近（2022 年 11 月単月）の旅客数 396 万人という数字は、2019 年同月の 7 割程度であることから、2023 年は更に旅客数が増加するものと予想されます。
- ・また、チャンギ空港は新型コロナウイルス感染症流行の影響により閉鎖していたターミナルの運用を徐々に再開しており、その結果、2022 年 12 月時点での旅客取扱能力は 7,000 万人以上と、2019 年通年の旅客数を上回る数字となりました。加えて、2022 年 12 月から、チャンギ空港の専用アプリを通じて、預入手荷物をトラッキングできるシステムを導入するなど、今後の旅客増に向けた対応を加速させています。

図1. チャンギ空港 月別旅客数推移

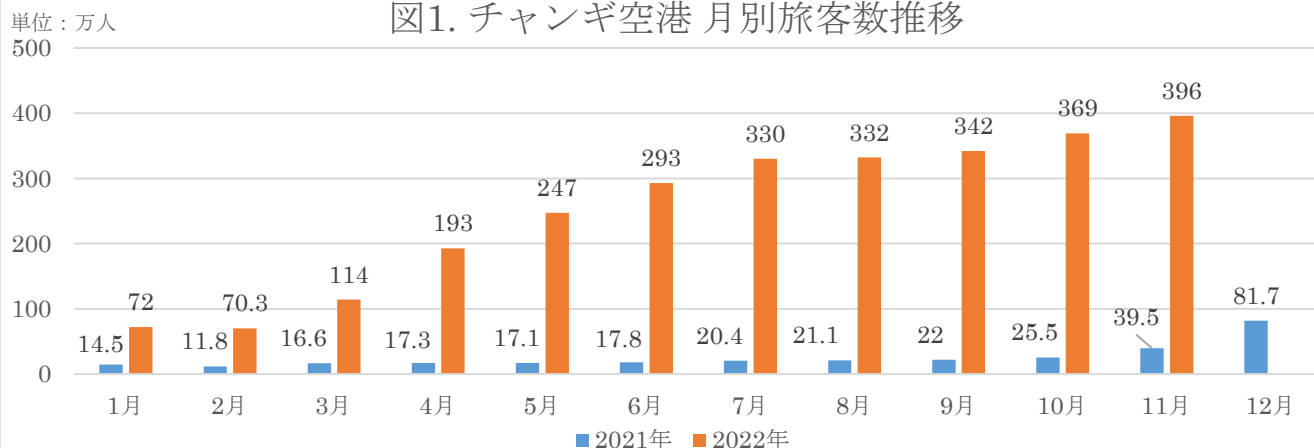
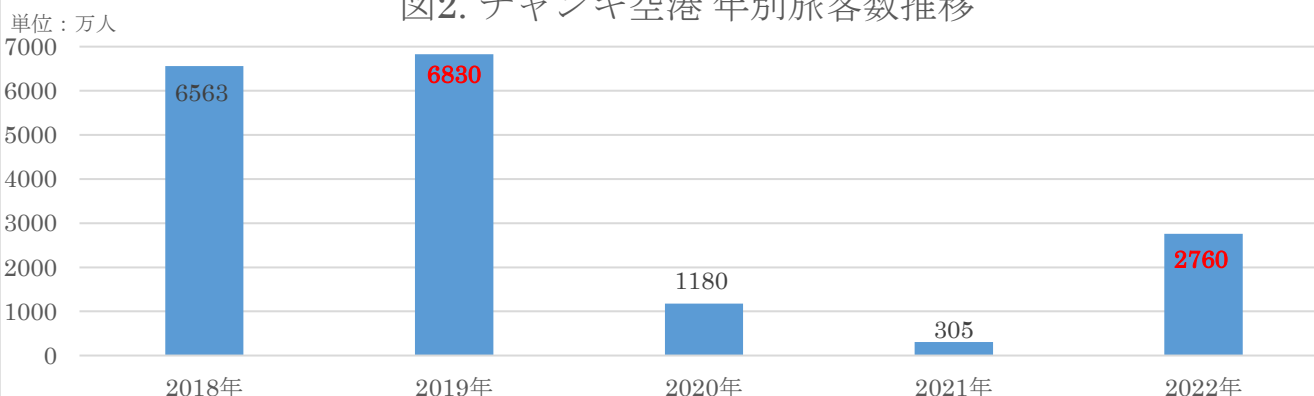


図2. チャンギ空港 年別旅客数推移



※2022 年 12 月分については旅客数データが未公表であることから、図 1.図 2 には反映されていない。

報告者 副所長 本間 純太（北洋銀行からの派遣）

■大規模イベントについて

- ・前項で記載のとおり、2022 年 4 月に各種規制の大規模な緩和が行われたところですが、1,000 人以上の大規模イベントの収容人数制限（キャパシティの 75%が上限）についても上限が撤廃されたため、2022 年はシンガポール各地で展示会やライブ等の大規模イベントが開催されました。
- ・図 3 は、2022 年 9 月 30 日～10 月 2 日に 3 年ぶりの開催となった F1 シンガポールグランプリにおけるライブパフォーマンスの様子です。3 日間で約 30 万 2,000 人の観客が訪れたとされています。この人数は、シンガポールグランプリ史上最多の観客数だったようです。また、図 4 は 2022 年 12 月 31 日に撮影した、有名商業施設の様子です。年越しの花火を見ようと、シンガポール国内外から多くの人が集まり、身動きが取れないほど混雑していました。
- ・このようにシンガポールでは既にコロナ禍以前の賑やかな日常が戻ってきている状況です。

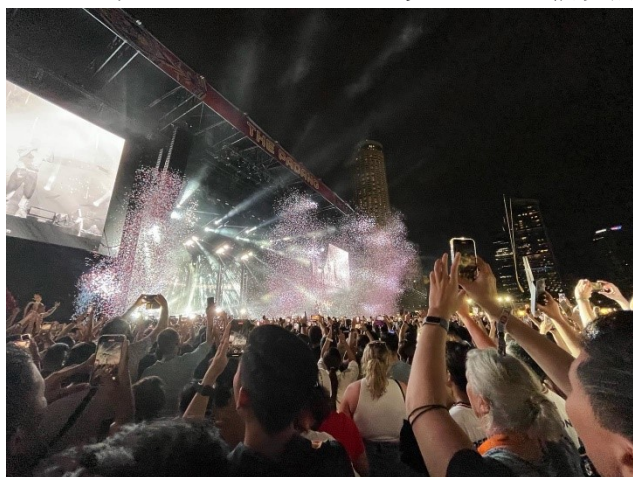


図 3



図 4

■経済指標について

- ・シンガポール政府は、2022 年 GDP（速報値・執筆時点）は前年比+3.8%だったと発表しました。2021 年は同+7.6%だったことを踏まえると、やや減速した印象を受けますが、シンガポールの主要産業のひとつであるサービス業については、+5%（前年は+5.6%）と依然高い伸び率を見せるなど、ホテル・航空・外食産業などの分野が好調だったことが指標からもうかがえます。

■所見

2022 年は、シンガポールにとって大きな変化があった 1 年でした。外で集まることができる人数を最大 2 名までにするなど、時には非常に厳しい行動制限を課してきたシンガポール政府ですが、2022 年は、「アフターコロナ」への移行が色濃く見受けられ、人の往来や経済活動が活発になった年だったと言えます。

2023 年はどのような年になるか予想もつきませんが、引き続き活気のあるシンガポール・ASEAN 諸国の様子を、本レポートにて報告します。